



東京通信大学 人間福祉学部

2025年度 公開講座

人間福祉学から考える 『くらし』2025

～子ども家庭福祉の現在・過去・未来～

開催日時

2025年9月13日(土) 14:00～16:00

興味のある方はどなたでも参加可能です。右のQRコードから申込みください。

参加無料

ライブ配信(Zoomウェビナー)

当日申込み可能



子ども家庭福祉領域の第一線で
活躍を続ける才村純 名誉教授が登壇！

児童虐待防止などに精力的に取り組み、文部科学大臣表彰を受けるなど、長年にわたり子ども家庭福祉の発展に貢献してきた本学 人間福祉学部 才村 純名誉教授が、『子ども家庭福祉の現状とこれからのあり方』についてお話しします。



東京通信大学

[問合せ] 03-3344-2222(代)

上記のQRコード、または東京通信大学WEBサイトからも申込みできます。
※事前申込みが必要です。

Q 東京通信大学 公開講座2025

人間福祉学は、“ウェルビーイング（WELL-BEING）”とは何かを多角的な視点でとらえ、多様な人々がくらしの中で抱える課題を社会全体として解決することを目的とする学際領域です。本公開講座では、毎年減少し続ける出生数、子育て家庭の共働きによる保育サービス不足など、子ども家庭福祉を取り巻く状況をテーマに私たちの暮らしのあり方をお話します。

講座『少子社会における子ども虐待問題～急がれる防止対策』



東京通信大学 人間福祉学部
才村 純 名誉教授

「子どもの数が少なくなっているのだから、子どもは大切に育てられるはず。なのに、子どもへの虐待が深刻化しているのはなぜ？」と疑問に思う人はいませんか。また、「少子化対策」と「虐待防止対策」は関係ないと思っている人はいませんか。実は少子化と虐待は密接に関わっているのです。

少子社会において「子どもは社会の宝」と言われ、親に過剰な責任が求められる中、プレッシャーから子育てに自信をなくす親も少なくありません。また、子育て不安や虐待が深刻化する中で、「子育てはつらいものだ」という意識が広がり、これが少子化に拍車をかけている面も否めません。

この講座では、少子化と子ども虐待との関係を俯瞰し、少子化対策を進めることが子ども虐待防止につながり、子ども虐待防止に力を注ぐことが少子化対策につながるという双方向の関係性について考察していきます。

【東京通信大学 人間福祉学部 才村 純 名誉教授 プロフィール】

大阪市立大学 文学部 人間関係学科 心理学専攻卒業。博士（社会福祉学・東洋大学）。大阪府の児童相談所に児童福祉司として勤務した後、大阪府福祉部福祉政策課主幹、厚生省児童家庭局企画課 児童福祉専門官、日本子ども家庭総合研究所 ソーシャルワーク研究担当部長、関西学院大学 人間福祉学部 教授などを歴任。厚生労働省の社会保障審議会児童部会専門委員会 委員長、日本子ども虐待防止学会 副会長（事務局長）、日本子ども家庭福祉学会 理事などを務める。東京通信大学 名誉教授。

討議『少子社会における子育ての課題』



東京通信大学 人間福祉学部
田谷 幸子 准教授

少子化が親へのプレッシャーを増大させるのはなぜか。子育て支援の不足は、少子化や子ども虐待にどのような影響を及ぼしているのか。そして、「社会全体で子どもを育てる」という意識は、どのように実践され得るのか——。こうした日ごろの疑問を出発点に、子ども家庭福祉の Opiniオンリーダーである才村 純 名誉教授とともに、少子社会における子育てや子ども虐待の問題について討議します。現場の具体的な事例も交えながら、現状の課題を多角的に捉え、解決に向けた方向性について考えていきます。

【東京通信大学 人間福祉学部 田谷 幸子 准教授】

東洋大学大学院 博士課程 福祉社会デザイン研究科 ヒューマンデザイン専攻 修了。博士（社会福祉学）。教育機関に勤務後、児童養護施設の児童指導員を経て、複数の大学で教鞭を執る。専門分野は児童福祉、女性福祉、ソーシャルワーク。後進指導・研究のほか、有識者として地域の支援活動に参加。社会的養護経験者への支援、女性支援、若年女性への性教育支援、若年妊娠・子育て支援を主なフィールドとしている。

開催日時

2025年9月13日(土) 14:00～16:00(入室開始13:45)

参加無料

ライブ配信(Zoomウェビナー)

当日申込み可能

参加希望の方は右のQRコードより申込みください。



東京通信大学

【問合せ】03-3344-2222(代)

興味のある方はどなたでも参加可能です。上記のQRコード、または東京通信大学WEBサイトからも申込みできます。

※事前申込みが必要です。

東京通信大学 公開講座2025